

授 業 概 要

平成25年度

3年次生
4年次生

群馬医療福祉大学 看護学部

〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡787-2

TEL 0274-24-2941

FAX 0274-23-4160

群馬医療福祉大学看護学部教育課程

平成 22 年度・23 年度入学生用

		科目名称				科目名称								
		配当 年次	単位数 必修 選択		備考			配当 年次	単位数 必修 選択		備考			
一般教養領域	人文社会科学系	1.	哲学	1	1			医学自然科学	58.	看護情報処理	1	1	養1・2	
		2.	法学(日本国憲法を含む)	1		2	養1・2		59.	公衆衛生学	3	1		養1
		3.	生命科学論	1	1				60.	疫学	3	1		養1
		4.	東洋哲学	1		1			61.	免疫・遺伝子と治療	3		1	
		5.	「仁」四徳と看護を考えるセミナー	1	1		養1		62.	最先端医療の実際と医療倫理	3		1	
		6.	コミュニケーション論	1	1				63.	保健医療福祉論	1・2	1		
		7.	ボランティア活動と「仁」四徳の精神性(専門演習I)	3	1		養1		64.	保健医療福祉制度と法規	3	1		
		8.	ボランティア活動と自己省察	1		1			65.	保健医療福祉と行政	3	1		
		9.	論語	1		1			66.	群馬の医療の歴史	4		1	
		10.	人間と家族と社会	1	1				67.	看護と福祉の連携	1	1		
		11.	人間の心理	1	1				68.	年金・医療・介護保険制度	2	1		
		12.	臨床の心理	4		1			69.	国民衛生の動向	4	1		養1
		13.	人間の成長発達と障害	1	1				70.	健康問題発見と問題解決対策論	4	1		養1
		14.	人間の認識と行動	1		1			71.	保健医療福祉統合セミナー	4	1		
		15.	人間と健康	1	1				72.	老人福祉論	4		1	
		16.	人間関係論	1	1				73.	児童福祉論	4		1	
		17.	ヘルスカウンセリングの原理と方法	4		1	養1		74.	障害者福祉論	4		1	
		18.	医療経済論	4		1							41	45
	19.	文学論	1・3		1		基礎看護学	75.	看護目的論	1	1		養1	
	20.	芸術論	1・3		1			76.	看護対象論	1	1		養1	
	21.	日本と世界の関係	3		1			77.	看護方法論	1	1			
	22.	教育と学習の原理	2・3	1		養1		78.	看護援助基礎技術I	1	1		養1	
	23.	教育心理	2・3		1	養1		79.	看護援助基礎技術II	1	1			
	24.	教育方法	3		1	養1		80.	看護援助基礎技術III	1	1		養1	
	25.	健康教育論	3		1	養1		81.	看護論I	1	1			
	26.	教職概論	4		2	養1		82.	看護論II	1		1		
	27.	教育課程論	4		1	養1		83.	看護論III	1		1		
	28.	道徳教育研究	1		1	養1		84.	看護診断と看護治療	2	1			
	29.	保健教育方法論	4		1	養1		85.	看護基礎実習I	1	1		養1	
	30.	生徒指導論	4		2	養1		86.	看護基礎実習II	1	2			
	31.	教育相談論	3		2	養1		87.	施設・病棟統合実習	3	2		養1	
	32.	教職実践演習	3		2	養1		地域看護学	88.	地域看護学概論I	3	1		
	33.	教育総合実習I	4		2	養1			89.	地域看護学概論II	2	1		
	34.	教育総合実習II(養護実習)	4		2	養1			90.	在宅看護援助論	2	1		
	35.	健康障害児・生徒支援論	4		1	養1			91.	在宅看護援助技術	2	1		
	36.	基礎英語I(英文読解基礎)	1	1		養1・2			92.	地域看護活動総論	3	1		
	37.	基礎英語II(英文読解応用)	1		1		93.		地域看護活動技術	4	1		養1	
	38.	医療英語	1	1		養1・2	94.		地域高齢者保健・介護予防活動論	4	1			
	39.	韓国語	4		1		95.		地域学童保健活動論	4		1	養1	
	40.	医療英語会話	2		1		96.		地域難病・感染症・健康危機対策と活動	4		1		
	41.	看護文献講読(V.ヘンダーソン「看護の基本となるもの」)	4	1			97.		養護概説	3		2	養1	
	42.	スポーツ科学原理	1	1		養1・2	98.		学校保健活動論I	3	1		養1	
	43.	スポーツ演習I	1		1	養1・2	99.		学校保健活動論II	3		1	養1	
	44.	スポーツ演習II	2		1		100.		産業保健活動論	4	1			
看護学関連領域	医学自然科学	45.	人体構造機能学I(成人総論:総論,皮膚,血液,循環,呼吸,消化器系)	1	2		養1	101.	地域健康問題診断と対策	4		1	養1	
		46.	人体構造機能学II(成人:泌尿器,内分泌,生殖,骨,筋肉,神経,感覚,免疫系)	1	2			102.	学校保健サービスのシステム化	4		1	養1	
		47.	人体構造機能学III(小児,老年特性)	1	2		養1	103.	在宅看護論実習	2	2			
		48.	疾病・治療論総論	1	1			104.	地域看護学実習I(保健所)	4	1			
		49.	疾病・治療論各論I	2	2		養1	105.	地域看護学実習II(市町村保健センター)	4	1			
		50.	疾病・治療論各論II	2	2			106.	地域看護学実習III(学校保健)	4	1		養1	
		51.	疾病・治療論各論III	2	1			107.	地域看護学実習IV(産業保健)	4	1			
		52.	臨床病理病態論	2	1		養1	精神看護学	108.	精神看護学概論	2	1		養1
		53.	臨床薬理・薬物論	1	1		養1		109.	精神看護援助論I	2	1		養1
		54.	栄養と代謝	1	1		養1		110.	精神看護援助論II	2	1		
		55.	栄養の基礎と応用	2	1		養1		111.	精神看護学実習	3	2		
		56.	数理統計の基礎	1		1			112.	母性看護学概論	2	1		
		57.	情報処理演習	1		1	養1・2		113.	母性看護援助論I	2	1		

科目名称		配当 年次	単位数		備考	
			必修	選択		
看護学領域	母性看護学	114. 母性看護援助論Ⅱ	2	1		
		115. 母性看護学実習	3	2		
	実践 小児看護学	116. 小児看護学概論	2	1		養1
		117. 小児看護援助論Ⅰ	2	1		養1
		118. 小児看護援助論Ⅱ	2	1		
		119. 小児看護学実習	3	2		養1
		120. 成人看護学概論	2	1		
	応用 成人看護学	121. 成人看護援助論Ⅰ	2	1		
		122. 成人看護援助論Ⅱ	2	1		
		123. 成人看護援助論Ⅲ	2	1		
		124. 成人看護援助論Ⅳ	2	1		
		125. 臨床看護学実習Ⅰ(成人老年・慢性期)	2	2		
		126. 臨床看護学実習Ⅱ(成人老年・急性期)	3	4		
	看護学 老年看護学	127. 老年看護学概論	2	1		
		128. 老年看護援助論Ⅰ	2	1		
		129. 老年看護援助論Ⅱ	2	1		
		130. 老年看護学実習Ⅰ(老人保健施設等)	2	2		
		131. 老年看護学実習Ⅱ(医療施設等)	2	2		
	看護学特論	132. 看護活動におけるメンバー・リーダーシップ	3	1		
		133. 感染・災害看護と危機管理(国際協力含む)	3	1		
134. 看護学教育論		4		1		
135. クリティカルケア特論		4		1		
136. 家族援助論		4		1		
看護研究	137. 訪問看護ステーション等経営管理論	4		1		
	138. 看護研究概論	3	1			
	139. 看護研究方法論	4	1			
	140. 看護研究セミナー	4	1		養1	
			66	13		
合計			107	58		
<p>合計 必修科目数 90 必修単位数 107 選択科目数 50 選択単位数 58</p> <p>卒業要件 必修科目数 90 必修単位数 107 選択科目数 50 選択単位数 17</p> <p>※養護教諭一種免許取得希望者は、「養1」の記入科目全部を修得すること ※養護教諭二種免許取得希望者は、「養2」の科目8単位取得すること</p> <p>卒業要件</p> <ol style="list-style-type: none"> 「一般教養領域」「看護学関連領域」「看護学領域」の必修90科目、107単位を修得すること。 「一般教養領域」の選択科目から5単位以上、「看護学関連領域」の選択科目から5単位以上、「看護学領域」の選択科目から、7単位以上を修得すること。 必修107単位、選択17単位の合わせて124単位修得を卒業要件とする。 養護教諭一種免許取得を希望する者は、上記1. 2. 3. の要件を充たした上に、「養護教諭一種免許課程」に基づき、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目8単位、養護に関する科目28単位、養護又は教職に関する科目7単位、教職に関する科目21単位を履修すること。 						

目 次

授 業 内 容

教育方法	1
健康教育論	2
教育心理	3
学校保健活動論Ⅰ	4
学校保健活動論Ⅱ	5
養護概説	6
精神看護学実習	7
母性看護学実習	8
小児看護学実習	9
臨床看護学実習Ⅱ(成人老年・急性期)	10
看護研究概論	11
日本と世界の関係	12
教育相談論	13
教職実践演習	14
公衆衛生学	15
施設・病棟統合実習	16
地域看護学概論Ⅰ	17
地域看護活動総論	18
看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップ	19
感染・災害看護と危機管理(国際協力を含む)	20
臨床の心理	21
生徒指導論	22
健康障害児・生徒支援論	23
教育総合実習Ⅰ	24
教育総合実習Ⅱ	25
看護文献購読	26
健康問題発見と問題解決対策論	27
地域看護活動技術	28
地域高齢者保健・介護予防活動論	29
産業保健活動論	30
地域学童保健活動論	31
地域難病・感染症・健康危機対策と活動	32
地域健康問題診断と対策	33
地域看護学実習Ⅰ(保健所)	34
地域看護学実習Ⅱ(市町村保健センター)	35
地域看護学実習Ⅲ(学校保健)	36

地域看護学実習Ⅳ（産業保健）	37
訪問看護ステーション等経営管理論	38
看護研究方法論	39
看護研究セミナー	40
ヘルスカウンセリングの原理と方法	41
医療経済論	42
国民衛生の動向	43
看護教育学	44

科目名	教育方法	担当教員 (単位認定者)	島田 昌幸	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育方法、ガイダンス、授業、システム化、教材開発、学習意欲				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

教育方法の事例の検討、授業のシステム化、芸術的構成、情報機器の活用等、多様な教育方法の学習をもとにして、独自の自作教材を開発する。

〔到達目標〕

- ①教育方法、ガイダンス、授業、システム化、教材開発等の基本的概念を習得する。
- ②課題解決の学習を通して学んだ成果を発表または報告する。

■授業の概要

教育方法の事例の検討をもとにして、授業に役立てる自作教材開発の方法を紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	序章 授業案内 第1章 教育方法の意義と内容(1) (カウンセリング、プログラム学習)
第2回	第1章 教育方法の意義と内容(2) (仮説実験授業、情報化、CAI等教育方法の潮流、参考書と課題)
第3回	第2章 教材開発の意義と方法(1) (教材開発の意義、三種類の自作テキスト教材)
第4回	第2章 教材開発の意義と方法(2) (自作テキスト教材の特徴)
第5回	第3章 情報機器の活用の方法(自作プレゼンテーション教材、自作CAI教材等)
第6回	第4章 授業の構成法(授業のシステム化と芸術的構成)
第7回	第5章 学習意欲を支援するガイダンス(意欲の構造、魅力的目標、達成期待、満足感期待)
第8回	第6章 課題研究成果の発表 第7章 総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

筆記試験の他にレポート提出、課題発表があり評価の対象になる。毎回、授業通信、概要感想質問用紙を配布する。概要感想質問用紙は授業後に毎回提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

課題レポートおよび自作教材作成は授業時間外で行うことになる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観、論述)40%、課題レポート及び発表40%、授業への参加度20%

■教科書

島田昌幸著「教育方法」研文社

■参考書

テキストおよび授業の中で紹介する。

科目名	健康教育論	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	健康教育 ヘルスプロモーション 行動変容				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕
健康教育やヘルスポモーションの考え方、行動変容を促す健康教育の理論と方法を理解する。
〔到達目標〕
健康教育のテーマを決めて学習指導案を作成し模擬授業を実践することにより、健康教育を実際の養護実習の場において活用する準備ができる。

■授業の概要

ヘルスポモーションにおける健康教育の理念を学び、主体的に行動変容を促す健康教育の手法を用いた、計画段階から評価までのプロセスを具体的な事例で確認する。その後、行動変容を促す健康教育の手法を用いた健康教育の学習指導案を作成し、模擬授業後の発表を行い、評価につなげる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・健康教育の概要
第2回	健康教育プログラムの計画と評価
第3回	健康教育・ヘルスポモーションの展開と方法
第4回	健康教育の実施1(演習)
第5回	健康教育の実施2(演習)
第6回	健康教育の実施3(演習)
第7回	健康教育の実施4(演習)
第8回	健康教育の発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
〔受講のルール〕
・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートを取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など)を活用すること。
・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。(評価には使わない)

■授業時間外学習にかかわる情報

・健康に関する情報(新聞記事など)を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。
・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

日本健康教育士養成機構編:新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道、保健同人社、2011
これからの小学校保健学習:日本学校保健会、2012
これからの中学校保健学習:日本学校保健会、2011
喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料 中学校編:日本学校保健会、2011

■参考書

学校保健・安全実務研究会:新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011
後閑容子 他著:健康科学概論(第3版)、廣川書店、2012
学校と家庭で育む子どもの生活習慣:日本学校保健会、2011

科目名	教育心理	担当教員 (単位認定者)	清水 敦彦	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	教職課程必修科目		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	教育心理				

■授業の目的・到達目標

教育心理学は、教育の諸問題を心理学的に研究し心理学の知識や技術を教育に適用して、教育の科学化・能率化を図ろうとする科学である。そのため大学の教職課程において必修科目となっており、教育界においても関心もたれ、教育実践にも活用されている。児童・生徒を正しく理解し、望ましい人格を育成するという高い目標を達成するために、適切な教育指導をいかにしたらよいかをねらいとする。

■授業の概要

児童・生徒を正しく理解し、望ましい人格を育成するための項目全般について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	教育心理学と課題
第2回	発達と教育 特別支援教育と発達障害
第3回	学習指導の心理
第4回	適応の心理と教育
第5回	学習理論
第6回	動機づけ 授業法
第7回	学級の心理
第8回	教育評価

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・板書、口述の内容は整理しておくこと。
- ・授業終了後に毎時間出題されるレポートは必ず提出すること。
- ・欠席数が5回以上超えると定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・レポートの作成。
- ・次の時間の教科書に目を通しておくこと。

オフィスアワー

なし

■評価方法

目安：定期試験80%、課題提出と授業態度総合して20%。総合的に評価する。

■教科書

松原 達也 編著 教育心理学 丸善出版 2013

■参考書

大村政男・清水敦彦外著 心理学概論 福村出版

科目名	学校保健活動論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における実践応用看護学「地域看護学」			
キーワード	学校保健計画 保健管理 保健教育 組織活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学校保健の歴史に基づき、制度や組織について理解する。

〔到達目標〕

学校保健について概観し、具体的な学校保健活動について学びを進める中で、学校保健の意義を明確に示すことができる。

■授業の概要

学校保健の歴史・制度・組織について概観し、学校保健活動における中核としての保健管理と保健指導について論じる。また、学校安全と食育を加えながら、具体的な学校保健活動を通して、関連機関や人的資源との連携について教授する。また、学校保健における今日的な課題を演習し、課題の解決に向けた取り組みについても理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・学校保健とはなにか、学校保健の歴史と制度
第2回	学校保健計画の概要、学校における保健管理
第3回	学校における保健教育、保健指導と保健学習
第4回	学校保健に関する組織活動
第5回	学校保健の評価
第6回	学校安全について
第7回	食育及び学校給食に関する事項
第8回	保健室の主な機能と養護教諭の役割

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
- ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・学校保健に関する情報（新聞記事など）を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）70%、レポート30%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

学校保健・安全実務研究会：新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011

■参考書

松本千明 著：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2011
 学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育：文部科学省、2012
 徳山美智子 他 編：改訂 学校保健 ヘルスポロモーションの視点と教職員の役割の明確化 東山書房、2012
 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導参考資料 中学校編：日本学校保健会、2012
 保健室経営計画作成の手引き：日本学校保健会、2009 保健主事のための実務ハンドブック：文部科学省、2011

科目名	学校保健活動論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における実践応用看護学「地域看護学」			
キーワード	学校保健安全計画 感染予防 学校環境衛生				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学校保健安全計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面を理解する。

〔到達目標〕

健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などの実技を身に付けることができる。

■授業の概要

学校保健活動論Ⅰで学んだ概論に基づいて、学校保健安全計画に沿って、養護教諭が行う具体的な活動の場面が理解できるように、項目ごとに具体例をあげながら教授する。また、具体的な項目ごとの、健康観察・健康診断・感染予防や危機管理・学校環境衛生などの実技が身に付くように演習を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・学校教育と学校保健の概要（講義）
第2回	学校保健安全計画の立案（講義・演習）
第3回	子どもの発育発達とヘルスプロモーション（講義）
第4回	健康観察の趣旨と実際（講義・演習）
第5回	健康診断の目的と実際（講義・演習）
第6回	感染予防・学校の危機管理（講義・演習）
第7回	学校環境衛生1（講義・演習）
第8回	学校環境衛生2（演習）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。

・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

〔受講のルール〕

・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）

■授業時間外学習にかかわる情報

・学校における感染予防や危機管理に関する情報（新聞記事など）を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。

・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）70%、レポート30%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

学校保健・安全実務研究会：新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011

徳山美智子・中桐佐智子・岡田加奈子：改訂 学校保健安全法に対応した学校保健、東山書房、2012

保健室経営計画作成の手引き、日本学校保健会、2011

■参考書

松本千明 著：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2011

科目名	養護概説	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における実践応用看護学「地域看護学」			
キーワード	養護教諭 保健教育 保健管理 組織活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割について理解する。
〔到達目標〕
学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割を理解し、子どもの現代的課題について情報の収集ができ、養護教諭の専門性について示すことができる。

■授業の概要

学校教育の場で、養護教諭の職務が円滑に進められるように、具体的で実践的な内容を基に次のような講義を行う。養護教諭の職務の変遷と歴史的経緯および、学校教育における養護教諭の役割。学校における保健管理・保健教育の内容と養護教諭の役割。保健室の役割と保健室経営計画。養護教諭の関連職種・関連機関との連携方法。子どもの現代的課題について情報の収集。以上の学習を踏まえて、養護教諭の専門性について先行研究を確認しながら検討を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・養護教諭の概念と職務の変遷
第2回	学校教育における養護教諭の役割1 養護教諭を取り巻く学問的位置づけ
第3回	学校教育における養護教諭の役割2 WHO健康の定義に即した検討
第4回	保健管理1 救急処置と健康観察
第5回	保健管理2 健康診断と疾病管理
第6回	保健管理3 学校環境衛生
第7回	保健教育1 教科における保健教育
第8回	保健教育2 特別活動などにおける保健指導
第9回	保健室の機能と役割
第10回	保健室経営における具体的な計画と実践
第11回	学校保健に関わる人的資源と組織活動
第12回	養護教諭の連携とコーディネート
第13回	子どもの現代的な課題と対策1
第14回	子どもの現代的な課題と対策2
第15回	養護教諭の専門性と研修の姿勢

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
〔受講のルール〕
・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など）を活用すること。
・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。（評価には使わない）

■授業時間外学習にかかわる情報

・学校保健に関する情報（新聞記事など）を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。
・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）70%、レポート30%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

采女智津江 編：新養護概説（第6版）、少年写真新聞社、2012
大谷尚子、中桐佐智子 編：養護実習ハンドブック、東山書房、2012

■参考書

学校保健・安全実務研究会：新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011

科目名	精神看護学実習	担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「精神看護学」			
キーワード	精神看護学実習				

■授業の目的・到達目標

【実習目的・到達目標】

- 精神に障害を持ち入院している人とその家族状況を理解する。
 - 精神に障がいをもつ人が入院に至った経過、生活背景が理解できる。
 - 精神機能の障がいや治療によって生じる身体機能および日常生活への影響が理解できる。
 - 精神に障がいをもつ人の家族状況が理解できる。
 - 精神に障がいをもつ人に関する制度・法律について理解できる。
 - サポートシステムを理解し精神に障害をもつ人や家族の援助を考えることができる。
- 精神に障がいをもつ人が入院している施設の概要を理解する。
 - 入院施設の概要が分かる。
 - 入院施設が目指す役割を説明できる。
- 精神に障がいをもつ人の全体像の生活行動を通して生活の視点から理解し必要な看護を計画し、実施、評価する。
 - 精神機能が生活におよぼす影響をアセスメントできる。
 - アセスメントから、その人の伸ばせる能力や改善する課題を述べることができる。
 - その人らしさを取り入れ、ともに目標、計画を立案し、実施できる。
 - 実施した看護について評価、修正できる。
- 精神に障がいをもつ人とのかかわりを通して自己洞察を深める。
 - 精神に障がいをもつ人の表情や言動に関心をもつことができる。
 - 精神に障がいをもつ人の表情や言動から感情の動きやその意味を考えることができる。
 - 精神に障がいをもつ人の反応から、自分自身の感じ方や考え方、行動の仕方に気づくことができる。
 - 患者 - 看護者関係において、自分自身の感情や行動がどのように影響しているか考えることができる。
- 精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を見いだす。
 - 精神科におけるチーム医療の意義を理解できる。
 - さまざまな職種が他の職種とどのような連携をもちながら役割を果たしているのか知る。
 - 看護師の病棟の活動や、社会復帰への援助のもつ意味を理解できる。
 - 精神科におけるリハビリテーション看護の課題を考えることができる。精神の障がいにより日常生活に影響をおよぼしている人々と家族に対する理解を深め、患者と看護者との関係を築きながら看護の果たす役割と援助方法を学ぶ。また、社会復帰とそのための地域精神保健活動の重要性を理解し、他の医療チームとの連携と看護活動における看護者の役割を学ぶ。

■実習履修資格者

- 人体構造機能学Ⅰ～Ⅴ、疾病治療論各論Ⅰ～Ⅴの単位の修得
- 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位の修得
- 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱの単位の修得

■実習時期及び実習日数・時間

実習時期：平成25年5月13日（月）～8月2日（金）
 実習日数・時間：10日間・9時～17時

■実習上の注意

- 精神看護学実習要項ならびに共通要綱を参照し、遵守する。
- 精神看護学実習で受け持ちあるいは出会った患者や家族等に関する情報の口外、個人のプライバシーに関わる記録物については取扱いに注意し、放置・紛失しないこと。
- 患者のペースを守り、状況を考えて対応をする。
- 服装・身だしなみは、実習に相応しいものとする。

■評価方法

精神看護学実習の目的・到達目標を評価基準に、病院実習・社会復帰施設見学実習・カンファレンスにおける学生の気づきや発言内容、記録物・レポート記載内容から、単位認定教員が総合的に評価し判定する。

科目名	母性看護学実習	担当教員 (単位認定者)	堀越 摂子 石沢 敦子	単位数 (時間数)	2 (45)
履修要件	3年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「母性看護学」			
キーワード	母子の看護、妊婦健康診査、産婦の看護、褥婦の看護、新生児の看護				

■授業の目的・到達目標

〈目的〉

妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児及びその家族の特徴を理解し、ウェルネスの観点から妊娠および出産に関わる健康の維持増進や健康上の課題を解決するための基礎的实践力と看護職としての態度・姿勢を養う。

〈目標〉

- 1) 妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的な経過と母子関係を理解する。
- 2) 妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族への看護の実際を理解する。
- 3) 母性看護の対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、及び倫理的責任課題について理解する。
- 4) 母性看護学実習を通して、自己の親性観(母性・父性観)を深められる。
- 5) 実習体験に基づいて、母性看護の役割や看護の本質を考察し、自己の課題を見出せる。

■実習履修資格者

母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、基礎実習Ⅱの単位を修得している事

■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習要綱 オリエンテーション用紙参照 (別途配布する)
2. 1グループ6名で2週間の病棟実習と外来実習をする。
3. 期 間:平成25年5月13日(月)～9月13日(金)
4. 施 設:公立藤岡総合病院, 組合立利根中央病院, 光病院

■実習上の注意

1. 別紙実習要綱を参照し、実習に臨む。
2. 欠席しないよう体調管理をして実習に臨む。
3. 既習学習内容を復習して、実習に臨む。

■評価方法

実習目標の到達度、看護技術の安全性、周産期各期についての知識、新生児についての知識、看護過程の理解、対象の理解、保健指導、メンバーシップ、リーダーシップ、自主的な取り組み姿勢、コミュニケーション能力、出席状況など評価基準に沿って評価を行う。評価基準は別紙実習要綱参照

科目名	小児看護学実習	担当教員 (単位認定者)	西山 智春 櫻井 美和	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「小児看護学」			
キーワード	小児看護、健康な子ども、健康障害を抱える子ども、重症心身障害児、看護過程、看護の役割・機能				

■授業の目的・到達目標

〔実習の目的〕

様々な健康状態、発達段階にある子どもとその家族を統合的に理解し、健康の回復および維持・増進を目指した個性性を考慮した看護を実践するための基礎的能力を養うとともに、小児看護の役割・機能を学ぶ。

〔到達目標〕

- 1) 小児期にある対象を身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解する
- 2) 小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性を身体的・心理的・社会的側面からアセスメントする
- 3) 小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題の解決および回避に向けた個別的な看護計画を立案・実施・評価する
- 4) 小児看護に必要な基本的な看護技術を習得する
- 5) 小児期にある対象の保健医療福祉における看護の役割・機能を理解する
- 6) 小児期にある対象の理解および看護実践をとおして、看護の役割・機能とその意義を理解する
- 7) 看護学の初学者として、看護の役割・機能を果たすための責任、および望ましい姿勢・態度を確認する

■実習履修資格者

以下の要件を満たしている者が、小児看護学実習に臨むことができる。

1. 看護基礎実習Ⅰ、看護基礎実習Ⅱの単位修得
2. 小児看護学概論、の単位修得
3. 小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱの単位修得

■実習時期及び実習日数・時間

実習期間：3年前期において実施する。

実習時間：90時間を基本とする。

■実習上の注意

実習要項（共通要綱および小児看護学実習臨地実習要項）を参照し、遵守すること。

■評価方法

小児看護学実習の一般目標および行動目標を評価基準として、各施設実習、学内演習、カンファレンスにおける学生の言動、記録物およびレポートの記載内容により、単位認定教員が評価、判定する。

科目名	臨床看護学実習Ⅱ(成人老年・急性期)	担当教員 (単位認定者)	平賀・白尾・赤石 他	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「成人看護学」			
キーワード	成人とは				

■授業の目的・到達目標

〈目的〉

健康の危機状況にある対象の特徴を理解し、全身状態の改善と合併症予防に努め、苦痛の緩和・早期回復に向けての看護ができる。

〈目標〉

- 1) 急性期・回復期にある患者および家族の特徴が述べられる。
- 2) 身体侵襲を伴う治療を必要とする患者への看護の方向性を見いだせる。
- 3) 周手術期にある患者の看護が出来る。
 - ①手術を受ける患者の身体的精神的準備と周手術期における経過がわかる。
 - ②手術中の安全管理と看護の役割がわかる。
- 4) 回復期におけるセルフケア再獲得に向けた援助ができる。
 - ①手術後の回復過程を過ごす患者に必要な看護ができる。
 - ②セルフケアを必要とする患者に指導ができる。
 - ③失われた機能を受容し生活の再構築に取り組む患者および家族への看護がわかる。
- 5) 生命の危機状態にある対象(救急外来・救急病棟・集中治療室などの)において、必要な医療や看護の場の特徴が理解できる。

■実習履修資格者

成人看護学概論・看護基礎実習Ⅰ及びⅡの単位の修得していること。
成人看護援助論Ⅰ・成人看護援助論Ⅱ・成人看護援助論Ⅲ・成人看護援助論Ⅳの単位認定の受験資格要件を満たしていること。

■実習時期及び実習日数・時間

1. 時 期:平成25年5月13日(月)～8月2日(金)
2. 日 数:4週間
3. 時 間:180時間(4単位)

■実習上の注意

1. 実習要綱 オリエンテーション用紙参照(別途配布)。
2. 指定された病院(別途指示)で1グループ5～6名で4週間(180時間)の病棟実習をする。
3. 個人衛生に留意し、実習に支障をきたさない事。
4. 既習学習内容を復習し、実技を修得して実習に臨む。

■評価方法

1. 4/5以上の出席をもって評価対象とする。提出期限以降の提出を認めない。
2. 実習評価表に基づいて評価する(実習要項参照)。

科目名	看護研究概論	担当教員 (単位認定者)	櫻井 美和 豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「看護研究」			
キーワード	看護研究、EBP、EBN、研究倫理、質的研究、量的研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

看護研究の意義、目的、看護実践としての看護研究の特徴やあり方について理解し、看護研究を実施するために必要な基礎的能力を習得する。

〔到達目標〕

- ①看護研究の特徴(定義、種類、方法、一連の過程)を理解する。
- ②看護研究における倫理的配慮の重要性を理解し、研究対象者の人権を擁護するために必要不可欠な研究者としての態度や行動を考察する。
- ③上記①・②の学習を通じ、実践科学としての看護研究の意義、あり方について考察する。
- ④看護研究に研究的・主体的態度で臨むことの重要性を理解するとともに、看護研究を実施するための自らの課題を明確にする。

■授業の概要

看護実践の質の向上、看護学の発展、看護専門職の専門性を発展させる上、看護研究は必要不可欠である。本科目では、看護研究の必要性・目的、看護研究における倫理、実践科学としての看護研究のあり方について論及し、看護研究を行う方向性を教授する。また、本科目は、看護学の初学者として看護研究とどのように関わっていく必要があるのかについて考える機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/看護研究の定義、意義、看護実践と看護研究の関係
第2回	看護研究の過程と概観:研究の6段階とその特徴、問題の発見と焦点化(リアルリーゼンとグッドリーゼン)
第3回	看護研究における文献検討:文献検討の意義、文献の読み方(クリティーク)、文献整理の方法、文献の活用方法
第4回	看護研究における倫理[1]:ケアの受け手である研究対象者の特徴、看護研究における倫理上の原則
第5回	看護研究における倫理[2]:研究対象者への研究説明書・同意書の作成
第6回	看護研究のタイプ[1]:看護研究における量的研究
第7回	看護研究のタイプ[2]:看護研究における質的研究
第8回	看護研究およびEBN(Evidence Based Nursing)の発展のための課題、総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

上記「授業計画」を参考に、教科書の該当箇所を精読し、予習を行う。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索、研究の進め方等)を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ・授業中に提示された課題の提出期限は必ず厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むこと。
- ・授業中に提示された課題には真剣に取り組むこと。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題レポート90%、授業態度・出席状況10%により総合的に評価する。

■教科書

- ①南裕子:看護における研究,日本看護協会出版会,2008.
- ②日本看護協会編:日本看護協会看護業務基準集 2007年改訂版,日本看護協会出版会,2007.

■参考書

- ・小笠原知枝,松木光子編:これからの看護研究-基礎と応用-第3版,ヌーヴェルヒロカワ,2012.
- ・D.F. ポーリット,C.T. ベック著:看護研究-原理と方法-第2版,医学書院,2010.

科目名	日本と世界の関係	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	人間関係、異文化理解、平和				

■授業の目的・到達目標

国際的な相互依存関係のなかで生きていく私たちが自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や異なる文化を持った人たちをも受け入れられらと繋がっていきける能力や態度を身につけることが私は極めて重要と考えています。そしていつも地球益を視野に入れて行動しようとする人物が求められています。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関係を知り、これからの私たちの歩んでいくべき道について考えていきます。更に、日本と世界との関係がどう発展したらよいかも考察します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	(オリエンテーション) 日本外交の原点に位置する聖徳太子
第2回	「神」の文化に対する「和」の文化-ナショナリズムとインターナショナリズムを巡って-
第3回	マルティン・ブーバーが説く人間関係、「我と汝」「我とそれ」
第4回	個性と異文化との格闘・異文化理解、そして外国語
第5回	ダブリン (Dublin) の聖母ホスピスで見た看護
第6回	イスラム医療とホスピス精神
第7回	赤十字社と赤新月社
第8回	湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動-国際貢献が世界観(価値観)を豊かにする-

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・シラバスは授業前に確認しておくように。
- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持って頂きたい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

最終レポート試験 (60%)、小レポートを含むリアクションペーパー (20%)、出席状況 (20%)

■教科書

テキストは指定しない。授業時に参考資料を適宜配布する。

■参考書

久山宗彦: 神の文化と和の文化、北樹出版、2007 他の参考書は授業時に随時紹介する。

科目名	教育相談論	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	教育相談 健康相談 保健室				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

学校における教育相談の意義と役割がわかる。養護教諭が行う健康相談活動の重要性を認識して、さまざまな課題について理解する。

[到達目標]

エビデンスに基づく分析ができ、人権や主体性を尊重しながら、養護教諭として児童生徒とかわかることができる。

■授業の概要

学校における教育相談の役割と意義を概説し、養護教諭が行う健康相談活動に焦点化して、学校現場で健康相談活動の理論に基づく実践が行えるように、不登校や発達障害・反社会的な行動・被虐待などさまざまな事例を通して、臨床的背景の理解と効果的な支援方法を教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・学校における教育相談の意義と役割
第2回	主なカウンセリング理論の理解
第3回	児童生徒の支援を行うための記録の仕方と分析について
第4回	児童生徒理解のための主なアセスメント技法
第5回	教育相談と健康相談活動の基本的理解
第6回	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景
第7回	健康相談活動に必要な資質・能力・技能
第8回	保健室における健康相談活動の初期対応
第9回	保健室を想定したロールプレイ1(演習)
第10回	保健室を想定したロールプレイ2(演習)
第11回	保健室登校について(グループ討議)
第12回	健康相談活動における連携と評価
第13回	事例研究1(演習)
第14回	事例研究2(演習)
第15回	事例研究3(発表)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。

・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。

[受講のルール]

・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方など)を活用すること。

・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。(評価には使わない)

■授業時間外学習にかかわる情報

・学校現場における不登校など相談活動に関する情報(新聞記事など)を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。

・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)

総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引:文部科学省、2011

大谷尚子、森田光子編:養護教諭の行う健康相談活動(第11版)、東山書房、2012

松村京子編:学校における情動・社会性の学習 就学前から高等学校まで、日本学校保健会、2012

■参考書

学校保健・安全実務研究会:新訂版 学校保健実務必携《第2次改定版》、第一法規、2011

子どものメンタルヘルスの理解とその対応:日本学校保健会、2010

子どもの心のケアのために:文部科学省、2010

養護教諭のための児童虐待対応の手引き:文部科学省、2010

科目名	教職実践演習	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	学校教育 教育実践 養護教諭				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学校教育について教職の意義および教員の役割と職務内容について理解し、学習指導案を立案し模擬授業を実践する。

〔到達目標〕

教職に関する科目と、養護に関する科目の学校保健Ⅰ・学校保健Ⅱ・養護概説で学んだ内容の統合を図り、使命感や責任感に裏付けられた確実な実践的指導力およびケアリング力を有する養護教諭としての資質能力を身に付けることができる。

■授業の概要

学校教育における諸活動を通じて、養護教諭の確実な実践的指導力およびケアリング力が身に付くように、講義や演習、ロールプレイやプレゼンテーションなどを組み合わせて、実際の学校教育の場を想定した教育課題を取り扱う。また、専門的な事項や現場における諸活動についての理解を深めることができるように構成する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 養護教諭と教職実践
第2回	教職の意義および教員の役割と職務内容、教育の本質と教育に関する考え方
第3回	子どもの権利条約と養護教諭（グループ討議）
第4回	発達段階に応じた学習や指導の過程
第5回	学校教育の制度と教育課程の編成
第6回	教育方法と技術
第7回	養護教諭の専門性（授業実践例から学ぶ）
第8回	特別活動・総合的な学習の時間などにおける養護教諭の関わり（授業実践例から学ぶ）
第9回	生徒指導・キャリア教育・教育相談と養護教諭
第10回	学習指導案と模擬授業・板書の理論1（演習）
第11回	学習指導案と模擬授業・板書の理論2（演習）
第12回	習熟度別少人数指導・特別支援教育
第13回	PTA・学校評議員・学校保健会委員・地域活動諸団体などとの連携
第14回	健康教育における模擬授業の実践①（発表）
第15回	健康教育における模擬授業の実践②（発表）

■受講生に関わる情報および受講のルール

1・2年次および3年次前期で学んだ科目内容を基に授業を行うので、予習段階での疑問点などは関連する科目の教科書や文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
○授業中、他の学生の学習権を侵害する行為（私語・複数回の遅刻・不適切な授業態度など）には注意を促し、改善が見られない場合は、当該学生と面談して相応な対処を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

・新聞記事やインターネット、本などから学校教育に関する教育課題を取り上げ、その課題に関する情報収集を行い、グループ討議で発表する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

評価方法 筆記試験50% 課題レポート40% 出欠状況10%

■教科書

中野啓明編：現代の教職原理、考古堂、2008
齋藤勉：授業批評の力を鍛える、明治図書、2007

■参考書

梶田毅一：確かな学力の育成と評価のあり方、金子書房、2010
思考力の育成を重視したこれからの高等学校保健学習：日本学校保健会、2009
小学校保健学習の指導と評価：日本学校保健会、2004
実践力を育てる中学校保健学習のプラン：日本学校保健会、2005

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年後期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「医学自然科学系」			
キーワード	健康 予防 人口動態 セルフケア ヘルスプロモーション 環境				

■授業の目的・到達目標

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的な能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれることがわかる。

■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口動態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業時に指示する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

本試験100%

■教科書

みるみる公衆衛生学最新版 医学評論社

■参考書

授業時に指示する。

科目名	施設・病棟統合実習	担当教員 (単位認定者)	中溝・溝口・ 石川・小林他	単位数 (時間数)	2 (90h)
履修要件	3年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「基礎看護学」			
キーワード	複数患者 優先順位 チーム医療 看護計画 看護管理				

■授業の目的・到達目標

〔実習目的〕

各看護学及び在宅看護論の実習の学びを基に、複数患者の看護援助の優先順位を判断し、チームの一員として看護を実践し看護専門職者としての自覚と責任を養う。また、看護管理の見学を通し、調整・マネージメントのあり方を学ぶ。

〔到達目標〕

- 1) 数名の患者の看護援助の優先順位を判断し、看護を実践できる。また、時間管理の必要性を理解する。
- 2) 入院患者の治療・処置・診療の援助技術を対象の安全性や業務の効率性を考慮しながら見学あるいは実施できる。
- 3) 患者がよりよく療養生活を送ることができるよう、看護チームの仕事の分業・共働・連携をどのようにしていけばよいか理解できる。
- 4) 病棟における看護管理及び他部門との連絡調整の実際を学ぶ。
- 5) 統合実習を通して、看護の専門性について考え看護観を深める。

■実習履修資格者

看護基礎実習Ⅱ・成人看護学実習・老年看護学実習・精神看護学実習・在宅看護論実習・小児看護学実習・母性看護学実習科目を全て単位を修得していること

■実習時期及び実習日数・時間

1. 実習時期 平成25年12月2日～13日
2. 実習日数 10日間
3. 時間 90時間

■実習上の注意

1. 具体的内容については、看護学実習の共通要綱及び基礎看護学実習要項に順じ遵守すること。
2. 事前学習を自己学習ノートにまとめておくこと。

■評価方法

1. 出欠席と単位については看護学実習要綱共通編を参照すること。
2. 施設・病棟統合実習の実習評価表に基づき目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。

科目名	地域看護学概論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年後期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	地域看護	公衆衛生看護	在宅看護	生活の場	看護職の役割

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

地域看護学の各分野とその概念、活動の場、および地域における看護職の役割を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①地域看護・公衆衛生看護の概念と歴史的・社会的背景を理解し、地域看護活動の在り方を考えることができる。
- ②人々の健康問題を環境・健康レベル・ライフステージ・個と集団等の側面から学び、看護の役割を理解できる。
- ③地域看護活動の場と諸分野を学び、健康レベルに対応した看護機能、及び施設看護との相違を理解できる。

■授業の概要

授業は講義を主とする。テーマによってはDVD等の視聴覚教材も使用する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	◇科目オリエンテーション ・地域看護の概念 1) 地域看護の目的 2) 地域看護の定義
第2回	・地域看護活動の場と分野 1) 公衆衛生看護 2) 在宅看護 3) 学校看護 4) 産業看護
第3回	・地域看護の歴史と社会的背景
第4回	・諸外国の地域看護活動
第5回	・人々の生活と地域看護の役割〔1〕 1) 人々の健康に影響するもの 2) ライフステージと健康問題
第6回	・人々の生活と地域看護の役割〔2〕 3) 健康レベルと看護活動 4) 個人・家族・集団の健康問題と看護職の役割
第7回	・WHOの保健戦略 1) プライマリーヘルスケア 2) ヘルスプロモーション
第8回	・地域保健福祉行政と地域健康施策 ・保健医療福祉の連携とケアコーディネーション

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・既修の関連科目（人間と健康、在宅看護・保健医療福祉関連科目等）の復習をして、臨んでください。
- ・自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。
- ・教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ・変更がある場合は前の週の授業か掲示で知らるので、常に注意を払ってください。
- ・遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験、課題レポート、受講態度により評価する。

■教科書

地域看護学 津村智恵子編著 中央法規出版 国民衛生の動向

■参考書

随時提示する

科目名	地域看護活動総論	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年後期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	地域看護活動 健康福祉の広報活動 地区踏査 市町村保健師				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

地域看護活動の全体像を把握するとともに、市町村における保健師の役割を理解する。

〔到達目標〕

- ①地域看護活動における個と集団の両側面からのアプローチの意義が理解できる。
- ②地域看護診断の方法を理解し、地区踏査のプロセスを実施できる。
- ③地域保健活動の実際と地域における看護職の役割を理解できる。

■授業の概要

・講義、地域の健康福祉に関するイベントへの参加、地区踏査の実施を通して地域の健康課題を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 地域看護活動の概要：対象とプロセス
第2回	地域看護診断 1) 地区踏査 2) 統計分析 3) 住民・関係者からの意見聴取
第3回	藤岡市健康福祉祭参加
第4回	地区踏査の実施(1)
第5回	地区踏査の実施(2)
第6回	地区踏査のまとめ
第7回	地区踏査の結果発表(1)
第8回	地区踏査の結果発表(2)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・自身や家族・身近な人々の健康や保健行動に関心をもって受講してください。
- ・教科書・プリント等は毎回持参してください。
- ・変更がある場合は前の週の授業が掲示で知らせるので、常に注意を払ってください。
- ・演習が多いため、日常の健康に注意を払い、極力、欠席をしないでください。
- ・遅刻・早退・欠席等は可能な限り事前に連絡し、プリント・資料等は自己責任で入手し、学習してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題レポート、筆記試験、受講態度により評価する

■教科書

公衆衛生看護学 津村智恵子他編著 中央法規出版 国民衛生の動向

■参考書

地域看護診断 金川克子編 東京大学出版会

科目名	看護活動における メンバーシップ・リーダーシップ	担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	3年後期選択科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「看護学特論」			
キーワード	看護活動、看護マネジメント、メンバーシップ、リーダーシップ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

看護活動の場において展開される看護マネジメントの基本と原則を習得し、将来看護活動の場で活用できるための基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ①看護マネジメントの基本と原則について、ドラッカーの考えを活用し理解できる。
- ②看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップについて理解できる。
- ③実習体験をとおして気づいたメンバーシップ・リーダーシップ事例を活用し自己の傾向を理解する。

■授業の概要

看護の機能するあらゆる場における看護マネジメントの基本ならびにメンバーシップ・リーダーシップ役割について、講義・グループワーク・ロールプレイ等の方法を用いて理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	1. 経営管理の歴史と看護管理への影響 2. 看護マネジメント(Nursing Management)の定義 3. 看護活動の場とマネジメントの必要性と目的
第2回	1. 病院における看護部組織と看護のマネジメント 2. 病院経営における看護職のありかた 3. チーム医療における看護メンバーシップとリーダーシップ
第3回	1. リーダーシップの定義 2. リーダーシップスタイル 3. リーダーシップ理論とリーダー行動の分類
第4回	ドラッカーのマネジメントー基本と原則ー(1)
第5回	ドラッカーのマネジメントー基本と原則ー(2)
第6回	グループワーク 学生たちが考える「看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップについて」
第7回	ロールプレイング 事例を活用
第8回	プレゼンテーション グループワークの課題について

■受講生に関わる情報および受講のルール

・授業中の質問は歓迎。グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーションいずれにもメンバーシップ、リーダーシップの学びを活用しながら進めていく。積極的に参加されることを期待する。

■授業時間外学習にかかわる情報

・看護活動におけるメンバーシップ・リーダーシップに関する情報(実習体験・新聞記事など)を収集する。
・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

・授業態度、出席状況、定期試験、課題レポートにより、総合的に評価する。

■教科書

- ①P.F. ドラッカー；上田惇生編訳：マネジメントー基本と原則、ダイヤモンド社、2011
- ②原玲子：看護マネジメント入門、日本看護協会出版会、2011

■参考書

- ①三隅二不二；リーダーシップとは何か、リーダーシップ理論の原理と応用、看護展望、1980
- ②Hearsey, P.&Branchard, K.H.; 山本成二他訳、行動科学の展開、人的資源の活用、日本生産性本部出版部、1978
- ③Cliford, J.C; 大卒看護婦スタッフを中心とした病院看護サービス、ペス・イスラエル病院の看護革命、INR(日本語版)、1985
- ④アンディクソン；山本光子訳：アサーティブネスのすすめ、拓殖書房、1991

科目名	感染・災害看護と危機管理(国際協力を含む)	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美 長嶺 めぐみ 他	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	3年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「看護学特論」			
キーワード	感染看護 災害看護 国際看護 医療安全				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
看護においてより専門性が期待される分野（国際、災害、感染等）での看護実践の基礎となる知識を学ぶ。
〔到達目標〕
①医療安全、感染予防の観点とその具体的実践方法を学ぶ。
②災害看護の役割と救命における具体的な看護活動を学ぶ。
③国際的視点で日本の現状を捉え、看護の役割を理解する。

■授業の概要

感染看護、災害看護、医療安全、国際看護といった内容について認定看護師を持つ専門家や青年海外協力協会から講師を招きオムニバスで講義を行う。災害看護では消防署による普通救命講習Ⅱの受講をし、修了証取得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 医療安全実践の基礎となる理論 インシデント・アクシデント
第2回	医療安全実践の基礎となる理論 危険予知トレーニング、リスクマネジメント
第3回	臨床における感染看護 臨床における感染の危険性と看護の役割
第4回	臨床における感染看護の実際 臨床における感染予防
第5回	災害看護と看護の役割 災害の種類と健康障害
第6回	災害看護と看護の役割 災害看護の特徴と看護活動
第7回	被災地での看護活動 DMATの活動
第8回	救命救急における看護活動1(普通救命講習Ⅱの受講)
第9回	救命救急における看護活動2(普通救命講習Ⅱの受講)
第10回	救命救急における看護活動3(普通救命講習Ⅱの受講)
第11回	国際社会の現状と看護における日本の役割
第12回	保健医療の国際協力 WHO ODA
第13回	異文化理解と看護活動
第14回	国際看護活動の実際1(JOCA 青年海外協力協会)
第15回	国際看護活動の実際2(JOCA 青年海外協力協会)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
・普通救命講習Ⅱは救命処置に関する講習会である。5グループに分かれて連続3コマの授業となるため、グループの日程は別途指示する。講習会では体育着を着用。修了証取得にあたって筆記及び実技試験がある。
〔受講のルール〕
・授業シラバスを必ず確認し、必要なテキストの準備を行って積極的に授業に臨むこと。
・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し修得すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(90%)、レポート(10%)とする。

■教科書

- 1) 坂本史衣:基礎から学ぶ医療関連感染対策 南江堂
- 2) 辺見 弘:看護の統合と実践② 災害看護学 メヂカルフレンド社
- 3) 田村やよひ:看護の統合と実践③ 国際看護学 メヂカルフレンド社

■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	臨床の心理	担当教員 (単位認定者)	鈴木 香代子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	医療コミュニケーション技術				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

臨床の場面で、患者の精神症状の早期発見と、支持的精神療法の実践ができるよう、メンタルケアの知識や技術を学ぶことを目的とする。

[到達目標]

- ①患者心理に理解を示すことができる。
- ②精神症状のアセスメントができる。
- ③場面別にみられる精神症状の知識を得る。
- ④看護介入の方法が理解できる。

■授業の概要

患者が健康障害を疑われた時、健康障害で入院しなければならない時、ICU・CCU管理時、手術を受けなければならない時、回復困難時、病名告知時、臨死時にどのような心理状態であるか理解する。さらに、それらの状態に適応する、あるいは適応障害時の心理について理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	メンタルナーシングの背景と方法
第3回	患者心理の理解と看護モデル
第4回	精神症状のアセスメントとアプローチ
第5回	場面別にみられる症状 その1
第6回	場面別にみられる症状 その2
第7回	看護介入の方法と実践
第8回	症例に基づくグループディスカッション

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]

記録物は手書きで提出してください。

[受講のルール]

授業の流れや雰囲気乱したり、ほかの受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示された宿題を、指示された日程までに提出すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験60%、課題提出内容20%、ディスカッション態度20%

■教科書

保坂 隆編集:Nursing Mook 11 全科に役立つメンタルナーシング、Gakken 2002

■参考書

授業時に指示する。

科目名	生徒指導論	担当教員 (単位認定者)	片山 哲也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	4年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許状取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	生徒指導の機能、積極的な生徒指導、教育の現代的課題、個別の問題行動				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

将来養護教諭として学校で生徒を指導する側に立つ事を想定して、生徒指導の基本理念を身につけて児童生徒理解が出来るようにし、かつ生徒指導が実践できる資質能力をつける。

[到達目標]

- ①生徒指導の意義と原理について理解できる。
- ②生徒指導と教科、道徳、特別活動、総合等との関係、地域や関係機関との連携等について理解する。
- ③いじめ、不登校、非行問題等児童・生徒の問題と今日的な保護者のあり方などについての課題と対応策について理解したり、養護教諭としての関わり方について理解する。
- ④C&Sアンケートや発達障害スクリーニングテスト、構造的グループエンカウンターやロールレタリング等の実技を伴う生徒指導技術の知識を得る。

■授業の概要

- (1) 授業形態は講義とグループ学習で行う。講義は基本理念を、グループ学習は学生が学ぶ意味を持つことが出来るようにするため演習的な課題解決学習とする。
- (2) 生徒指導の教育課程との関係や地域連携など具体的事例を多く取り入れ実践的資質の向上を図る学習とする。
- (3) 現在学校で行われているアンケートやテストなど具体的技術を実践し、活用方法を身に付ける学習とする。
- (4) 生徒指導は人間教育であることを理解し、学生自身の自己指導能力を高める学習とする。
- (5) 第8回は全員参加方式のシンポジウム形式による意見交換、情報交換、質疑により教育実習前の準備学習とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	生徒指導論オリエンテーション、(指導計画とレポートについて)、生徒指導の意義と原理、アイスブレイキング、グループ作り
第2回	実習「学級の雰囲気と自己肯定感(C&S)アンケート実践1質問、C&Sの意義と活用、第3回授業課題提示(生徒指導提要第2章から)
第3回	生徒指導の歴史(郷中教育・子ども・若者白書から学ぶ)、教育課程と生徒指導について課題発表と講義
第4回	C&Sアンケートの実践2(集計)、第5回授業課題提示(生徒指導提要第3章から)
第5回	生徒指導のための児童生徒理解について課題発表と講義
第6回	ロールレタリングの手法、ロールレタリング1、第7回授業の課題提示(生徒指導提要第4章から)
第7回	生徒指導のための学校の指導体制について課題発表と講義
第8回	ロールレタリング2、第9回授業の課題提示(生徒指導提要第5章から)
第9回	生徒指導のための教育相談について課題発表と講義(実践事例2件)
第10回	構造的グループエンカウンター、ロールレタリング3、第11回授業の課題提示(生徒指導提要第6章Iから)
第11回	生徒指導の進め方I、課題発表と講義、自己指導能力(基本的生活習慣、特に食生活)レポートについて
第12回	発達障害スクリーニングテスト実践と各種検査について、第13回授業の課題提示(生徒指導提要第6章II)
第13回	生徒指導の進め方II、課題発表と講義、特にいじめ、不登校、IGT関連問題は新聞記事を使って意見集約
第14回	生徒指導に関する法制度概要、生徒指導の為の地域・関係機関との連携、講義シンポジウム課題提示とグループ分け、C&S実践3質問2回目
第15回	シンポジウム(全員が3課題のうち的一件についてシンピジストとして発言)課題1、児童生徒の命、いじめの根絶 課題2、教育実習への不安と期待 課題3、若者の未来づくり C&S第2回の集計結果

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]

・授業の中でグループでの課題発表を行います。第3回より13回の間で必ず1回は実施します。

[受講のルール]

- ・発表、手紙、実習などを多く取り入れた授業です。積極的に授業参加して下さい。
- ・生徒指導をする教師には人間的資質の高さが重要です。講義を通じて人間力向上を目指して下さい。
- ・相互に(講師と受講者)尊敬しあえる人間関係を築き、学べる事に感謝して、社会に出る心構えを作りましょう。

■授業時間外学習にかかわる情報

4月5月の間の いじめ、自死事件、不登校、ニート、SNS等情報関連、特別支援教育などの新聞記事を積極的にスクラップしておくこと。

■オフィスアワー

質問等はメールにて受付ける予定

■評価方法

①試験(論述)50% ②レポート20% ③グループ発表30%

■教科書

「生徒指導提要」 著作・出版 文部科学省 290円

■参考書

子ども・若者白書(内閣府)

科目名	健康障害児・生徒支援論	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子 櫻井 美和	単位数 (時間数)	2 (15)
履修要件	4年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許状取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「教育学系」			
キーワード	特別支援教育、健康障害、心身の発達、学習の過程				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援教育の意義、在り方等の理解に基づき、健康障害を抱える幼児、児童および生徒の自立と社会参加の促進、健康の維持・増進、安全の保障を目指した支援に必要な基本的知識・技術を習得する。

〔到達目標〕

- ①健康障害を抱える幼児、児童および生徒とその家族への支援における基本理念を理解する
- ②健康障害を抱える幼児、児童および生徒とその家族の特徴を身体・心理・社会的、発達の、教育的、治療的側面から理解し、健康障害の特性、ライフステージ等に応じた個別的、かつ生涯を見通した支援を進める上で必要な基本的知識・技術を得る
- ③健康障害を抱える幼児、児童および生徒とその家族への支援において、諸分野との連携をはじめとした一体的な取り組みの重要性を理解する

■授業の概要

健康障害を抱える幼児、児童および生徒の心身の発達及び学習の過程を学び、特別な支援に必要な知識、理解、教育的対応等について教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/健康障害を抱える児童生徒への支援の基本理念[1]:特別支援教育の現状・統計、子どもの権利、ノーマライゼーション、国際生活機能分類(ICF)
第2回	健康障害を抱える児童生徒への支援の基本理念[2]:法制度、特別支援教育の理念・基本方針
第3回	健康障害を抱える児童生徒への支援の実際と支援者の役割①:健康障害を抱える幼児、児童および生徒の心身の発達と学習過程、健康障害を抱える児童生徒と家族の全人的理解、障害の受容過程
第4回	健康障害を抱える幼児、児童および生徒への支援の実際と支援者の役割②:特別なニーズのある子どもと家族への支援
第5回	健康障害を抱える幼児、児童および生徒への支援の実際と支援者の役割③:特別なニーズのある子どもと家族への支援
第6回	健康障害を抱える幼児、児童および生徒への支援の実際と支援者の役割④:医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援
第7回	健康障害を抱える幼児、児童および生徒への支援の実際と支援者の役割⑤:医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援
第8回	特別支援教育における連携の実際と支援者の役割

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
- ・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等)を活用すること。
- ・授業の流れや雰囲気や他を受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ・授業の感想を書く。(評価には使わない)信頼関係の下で、表現力を育てるために行うものである。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・特別支援教育に関する情報(新聞記事など)を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

- ①国立特別支援教育総合研究所監修:特別支援教育の基礎・基本,2009
- ②文部科学省:特別支援教育幼稚部教育要領・小学部学習指導要領・高等部学習指導要領,2009
- ③飯野順子、岡田加奈子編集:養護教諭のための特別支援教育ハンドブック、大修館書店,2007

■参考書

- ・特別支援教育の理論と実践.一般財団法人協会.竹田契一、上野一彦他,2012
- ・松石豊次郎、北住映二、杉本健郎:医療的ケア研修テキスト—重症児者の教育・福祉、社会生活の援助のために、クリエイツかもがわ,2012

科目名	教育総合実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	4年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域領域における「教育学系」			
キーワード	学校保健 養護教諭の職務 児童生徒 健康				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

養護教諭の実践能力を高めるために、養護教諭の仕事を経験し、養護教諭の役割・機能を体験を通してまとめる。また、実習ガイダンス等の事前指導及び事後指導を行う。

【到達目標】

- 1) 学童・生徒の健康問題を知ることができる。
- 2) 養護教諭および保健室の役割、機能を学ぶことができる。
- 3) 事前指導を通して、養護実習における目的や方法、心構えを理解する。
- 4) 事後指導において、学生同士が学びを発表し、実習での学びを共有する。

■実習履修資格者

3年次までに養護教諭1種免許状取得に係る科目の単位認定を満たしていること。

■実習時期及び実習日数・時間

実習時期:2013年6月3日(月)～6月28日(金)

実習日数・実習時間:3週間、事前指導、事後指導1週間 合計4週間

実習施設:学生の出身小中学校

*実習方法の詳細は「臨地実習要項 教育総合実習Ⅱ」に提示する。

■実習上の注意

教育総合実習(養護実習)要項に沿って実習する。

1) 基本姿勢

実習校の教職員は、後継者を育てるために、多忙な時間を割いて実習生の教育・指導に当たっていただいている。このことを十分に理解し、感謝して、謙虚な姿勢で実習に臨む。また、一人一人が群馬医療福祉大学看護学部を代表しているという自覚をもって行動する。

2) 実習校の教職員に対して

実習校の教職員に対しては、自分は指導を受ける立場にあることを念頭において接する。一つ一つの動作や、言葉使いにも細心の注意を払う必要がある。

3) 教師としての自覚と責任

実習生は、大学においては「学生」であっても、児童生徒と接する場面においては、人生の先輩であるとともに、指導者として、一人前の「先生」としてみられる。実習中は「教師」としての自覚をもち、それに見合った責任を果たすことが求められる。体罰は厳禁である。教師としての「守秘義務」があることは最も重要な確認事項である。

4) 「学ぶもの」としての自覚

実習生は、「学ぶもの」としての自覚をもち、教職員や児童生徒を「師」として関わる。授業・休み時間・清掃・学校行事など、学校に関わるすべてに関心を示し、課題意識を持って積極的に関わり、多くのことを吸収する。

5) 実習のピア支援

一緒に実習する仲間は、学習活動や情報交換において協力し、相談相手として機能するなど、充実した実習になるように支えあう。(リーダーは、実習生のまとめ役として、挨拶や諸連絡の窓口になる。)

■評価方法

1) 評価項目:以下の項目を基に総合的に評価する。

- ①出席状況
- ②実習内容、実習目的・目標に対する理解状況
- ③実習に向けた態度
- ④実習記録・レポート提出についての理解度

2) 評価手順と方法

- ①自己評価:実習終了時に学生が自己の評価を行う。
- ②提出物:実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。

科目名	教育総合実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	4年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域領域における「教育学系」			
キーワード	保健室経営 養護教諭の職務 健康 連携				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

大学教育で習得した一般教養・教職教養および養護に関する専門的知識・技術を学校教育の場で実際に適用あるいは応用するとともに、実習の経験に基づいて理論的裏付けを確認する。また、学校教育に影響を及ぼす社会的事象や生活環境の変化等を理解して、現代的課題に応える教育者としての自覚を高める。

【到達目標】

- (1) 児童生徒の発育や発達段階について学習した内容を、学校教育の場で確認する。
- (2) 児童生徒の教育に必要な、養護教諭の専門的技術や能力を身に付ける。
- (3) 教室での学習活動の状況と、保健室に来室する児童生徒の実態を比較して、児童生徒の発達段階における特徴を理解する。
- (4) 学校の組織や運営を理解した上で、保健室経営に参画する。また、学校保健の視点を通して、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等を体験する。
- (5) 養護教諭と学級担任や他の教職員との連携や協働のあり方を理解する。
- (6) 学校における救急体制を確認し、校内・校外での連携のあり方を養護教諭の体験した救急体制に関わる事例等の資料や講話を通して理解する。

■実習履修資格者

3年次までに養護教諭1種免許状取得に係る科目の単位認定を満たしていること。

■実習時期及び実習日数・時間

実習時期：2013年6月3日(月)～6月28日(金)
 実習日数・実習時間：3週間、事前指導、事後指導1週間 合計4週間
 実習施設：学生の出身小中学校
 *実習方法の詳細は「臨地実習要項 教育総合実習Ⅱ」に提示する。

■実習上の注意

教育総合実習(養護実習)要項に沿って実習する。

1) 基本姿勢

実習校の教職員は、後継者を育てるために、多忙な時間を割いて実習生の教育・指導に当たっていただいている。このことを十分に理解し、感謝して、謙虚な姿勢で実習に臨む。また、一人一人が群馬医療福祉大学看護学部を代表しているという自覚をもって行動する。

2) 実習校の教職員に対して

実習校の教職員に対しては、自分は指導を受ける立場にあることを念頭において接する。一つ一つの動作や、言葉使いにも細心の注意を払う必要がある。

3) 教師としての自覚と責任

実習生は、大学においては「学生」であっても、児童生徒と接する場面においては、人生の先輩であるとともに、指導者として、一人前の「先生」としてみられる。実習中は「教師」としての自覚をもち、それに見合った責任を果たすことが求められる。体罰は厳禁である。教師としての「守秘義務」があることは最も重要な確認事項である。

4) 「学ぶもの」としての自覚

実習生は、「学ぶもの」としての自覚をもち、教職員や児童生徒を「師」として関わる。授業・休み時間・清掃・学校行事など、学校に関わるすべてに関心を示し、課題意識を持って積極的に関わり、多くのことを吸収する。

5) 実習のピア支援

一緒に実習する仲間は、学習活動や情報交換において協力し、相談相手として機能するなど、充実した実習になるように支えあう。(リーダーは、実習生のまとめ役として、挨拶や諸連絡の窓口になる。)

■評価方法

1) 評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。

- ①出席状況
- ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況
- ③実習態度
- ④実習記録・レポート

2) 評価手順と方法

- ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。
- ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。
- ③上記評価票により、A、B、C、Dの4段階で総合的に評価する。

科目名	看護文献購読	担当教員 (単位認定者)	飯野 順子・西山 智春 橋本 知子・櫻井 美和・丸井 明美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「外国語」			
キーワード	V. ヘンダーソン 看護の基本となるもの 看護専門用語 英文読解 クリティーク				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

既習のV. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の原書を通し、概念の理解を深めるとともに、英文読解力を養う。海外看護文献購読を通して学術論文の読み方の理解を深め、看護研究を実践するための基礎的能力を習得する。

〔到達目標〕

1. V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の原書を読み、英文読解力を高める。
2. 上記看護理論の概念及び看護専門用語についての理解を深める。
3. 各看護学領域における海外看護文献の読み方(クリティーク含む)を理解する。

■授業の概要

既習のV. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を教材として、英文読解能力、看護専門用語と概念を学び、看護の本質をディスカッションする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 要約
第2回	1. 呼吸を助ける
第3回	2. 飲食を助ける
第4回	3. 排泄を助ける
第5回	4. 姿勢保持、体位・身体を動かすのを助ける
第6回	5. 休息と睡眠を助ける
第7回	海外看護文献購読①
第8回	海外看護文献購読②
第9回	海外看護文献購読③
第10回	海外看護文献購読④
第11回	海外看護文献購読⑤
第12回	海外看護文献購読⑥
第13回	海外看護文献購読⑦
第14回	海外看護文献購読⑧
第15回	海外看護文献購読⑨

■受講生に関わる情報および受講のルール

これまでに学んだ看護理論「看護の基本となるもの」を精読し、グループ討議に積極的に参加する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(50%) 課題レポート(50%)

■教科書

Virginia Henderson: Basic Principles of Nursing Care 1960.

湯槇ます、小玉香津子訳: V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 2011.

■参考書

授業時に指示する。

科目名	健康問題発見と問題解決対策論	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美・ 赤石 美佐代 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系」			
キーワード	児童・生徒の健康 生活習慣病 健康問題と対策				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

今日における健康問題に焦点を当て、地域社会における健康問題の発見とその解決に向けた取り組みについて理解する。

【到達目標】

- ①児童・生徒、成人、高齢者それぞれの対象者における健康問題がわかる。
- ②健康問題発見とその解決に向けた取り組みについて掘り下げて調べることができる。
- ③発表を通して、各発達段階における健康問題への今日的取り組みが理解できる。

■授業の概要

小児では児童・生徒として学校での健康問題（インフルエンザ、視力低下など）、成人では生活習慣（高血圧、がんなど）や職業に関わる健康問題（腰痛、放射線被ばくなど）、高齢者では身体機能の衰えに伴う健康問題など、それぞれの発達段階における健康問題を取り扱い、グループワークを通して健康問題発見とその解決に向けた今日的取り組みを学ぶ。さらに、発表をとおして、学びを共有する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、グループワークの進め方
第2回	健康問題とその解決および支援の実際① グループワーク テーマ決定、文献検索
第3回	健康問題とその解決および支援の実際② グループワーク 文献検索および文献検討
第4回	健康問題とその解決および支援の実際③ グループワーク 文献検索および文献検討
第5回	健康問題とその解決および支援の実際④ グループワーク レポートおよび発表資料作成
第6回	健康問題とその解決および支援の実際⑤ グループワーク 発表準備
第7回	発表①
第8回	発表②

■受講生に関わる情報および受講のルール

【受講生に関わる情報】

・グループワークはリーダーを決め主体的に取り組むこと。

【受講のルール】

・文献検索、資料作成はコンピュータ室および図書室の使用を認めるが、原則、グループワークは指定の教室で行うこと。
・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

グループワークでは意思決定ができるよう、準備を事前に行っておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

グループでのレポート及び発表を評価する。
総合評価は60%を超えていることが前提となる。

■教科書

国民衛生の動向 厚生労働統計協会

■参考書

授業時に指示する。

科目名	地域看護活動技術	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子 佐藤 京子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	ライフステージ、支援技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

授業における様々な対象に対する関係法規、制度の中で展開される保健活動の概要を理解し、保健活動を展開するための保健師の支援技術を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①対象のライフステージ別の保健活動の概要を理解する。
- ②公衆衛生看護に必要な理論の概要を理解する。
- ③家庭訪問、健康相談、健康教育支援技術を理解する。

■授業の概要

母子保健、成人保健、精神・障害者保健について、制度・施策に基づいて展開されている保健活動を学ぶ。また、家庭訪問、健康診査の演習、健康教育の指導案、教材作成を通して、具体的な援助技術を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	地域看護に活用される理論
第3回	わが国の母子保健
第4回	乳幼児の成長発達と保健指導、母性の生活と保健指導
第5回	母子保健活動の実際 健康診査・家庭訪問・学級活動・医療援助・予防接種 / 演習説明
第6回	成人保健の動向、理念、歴史的変遷
第7回	成人保健施策と保健師活動、健康日本21
第8回	成人期の生活と保健指導、生活習慣病と保健指導、地域のサポートシステム、社会資源
第9回	地域精神保健活動
第10回	演習 家庭訪問① / 健康教育(グループワーク)
第11回	演習 家庭訪問② / 健康教育(グループワーク)
第12回	演習 3歳児健診① / 健康教育(グループワーク)
第13回	演習 3歳児健診② / 健康教育(グループワーク)
第14回	健康教育グループ発表
第15回	健康教育グループ発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講に関わる情報〕

- ・演習時の服装は、普段着とする。ただし、事前に示す注意点を守る。
- ・予習復習を必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守、対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。態度や身だしなみ等が整っていない場合、受講を認めない。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)を禁ずる。

■授業時間外学習にかかわる情報

演習は、予習と事後レポートの提出が必須である。授業時間内にグループ演習の作業を終了することができない場合は、期日までに成果物を完成させるよう、グループメンバーと相談し、自主的な学習時間を取る必要がある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験60%、実技(演習)およびレポート40%

■教科書

金川克子編:最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動.メヂカルフレンド社、2012
 金川克子編:最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②心身の健康問題と保健活動.メヂカルフレンド社、2012

■参考書

津村智恵子 上野昌江編:公衆衛生看護学.中央法規出版、2012
 国民衛生の動向2012/2013 厚生統計協会

科目名	地域高齢者保健・介護予防活動論	担当教員 (単位認定者)	狩野 きみ子 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	高齢者、介護予防、健康教育、口腔保健				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

高齢者の特性を踏まえ、地域で生活する高齢者への保健活動と保健師の役割を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①地域で生活する高齢者の社会的・心理的・身体的特徴を理解できる。
- ②要介護高齢者とその家族への支援の実際を学ぶ。
- ③地域支援事業、介護予防活動について理解できる。
- ④口腔保健活動について理解できる。

■授業の概要

高齢者の特性を踏まえ、地域で生活する高齢者がより健康で豊かに生活できるための支援の実際と保健師活動について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、地域における高齢者
第2回	高齢者の疾病予防と健康維持
第3回	健康教育
第4回	虚弱高齢者の生活機能の低下予防(介護予防)と健康維持
第5回	介護や支援を要する高齢者のケアシステム
第6回	高齢者の健康を支える法律・制度・ソーシャルサポートシステム
第7回	高齢者の権利擁護
第8回	口腔保健活動

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講に関わる情報〕

予習：テキストを読んで講義に臨む 復習：配布されたプリント、資料を読み返す

〔受講のルール〕

- ・時間の厳守
- ・学習にふさわしい身だしなみ
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・それぞれの授業テーマについて、地域看護学概論Ⅰ・Ⅱを復習しておくこと
- ・在宅看護論実習、老年看護学実習等の実際の体験を踏まえて、関係職種・社会資源の活用・地域連携についての理解を深めていく

■オフィスアワー

なし

■評価方法

小テストおよび定期試験

■教科書

金川克子編：最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動。メヂカルフレンド社、2012
 金川克子編：最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②心身の健康問題と保健活動。メヂカルフレンド社、2012

■参考書

随時、紹介する

科目名	産業保健活動論	担当教員 (単位認定者)	川名 ヤヨ子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	産業保健 労働安全衛生 職業性疾患 産業看護活動				

■授業の目的・到達目標

企業等で働く労働者の健康と労働の調和を図り、労働者の疾病予防と健康の保持増進の実践である。労働者は、作業に伴う事故や健康障害に遭遇し易いことから産業看護の視点での作業環境管理・作業管理・健康管理・統括管理・労働衛生教育について理解する。特に健康診断、職業起因性の疾患と予防の実践と関連した厚生労働法規について学ぶ。

■授業の概要

人の一生で一番活動的で大切な職業生活を看護の視点で支援する産業看護活動の事例等を通して具体的に授業を展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	産業保健の生い立ちとわが国の産業保健・看護
第2回	労働衛生関係の動向と産業保健の基本
第3回	産業保健・看護の実態
第4回	職業性疾患とその予防における産業看護職の役割
第5回	作業環境管理・作業管理の概要と看護職の役割
第6回	産業看護活動の実際
第7回	労働現場から学ぶ(職場訪問)①
第8回	労働現場から学ぶ(職場訪問)②

■受講生に関わる情報および受講のルール

無遅刻・無欠席にて授業に積極的に参加する。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会の変化に関連した法律・制度の改正に関心を持つ。働く人々の健康問題を多面的に捉え、看護の役割・機能を考える。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期テスト(80%) レポート(20%)

■教科書

最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論① メヂカルフレンド社、 国民衛生の動向2012/2013

■参考書

開講時提示する。

科目名	地域学童保健活動論	担当教員 (単位認定者)	丸岡 紀子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭一種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	学童期 地域 健康課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学童期の成長発達及び健康課題、それに対する保健活動を学び、ライフステージに応じた地域における看護活動の理解を深める。

〔到達目標〕

- ①児童生徒の心身の健康の現代的課題とその背景を理解する。
- ②児童生徒の心身の健康課題に対する保健活動とその方法を理解する。

■授業の概要

学童の成長発達を理解し、健康課題とそれに対する対策及び、健康保持増進活動の方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	学童期の成長発達
第3回	学童保健の指標、学齢期の健康状況
第4回	健康状態に応じた子どもへのかかわり
第5回	学童期の健康課題と対策について 討議準備
第6回	グループワーク：学童期の健康課題と対策について 討議準備
第7回	グループ討議：学童期の健康課題と対策について 討議
第8回	グループ討議 まとめの発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

ディスカッション形式の授業です。事前学習をして、自分の意見をもって参加してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、書籍、インターネット、テレビ、映画など多様なメディアから関連する情報、あるいは身近な人からの情報を得て、各自学童保健に対する問題意識を持って授業にのぞむこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

小テスト30%、レポート40%、ディスカッションの参加度30%で評価する。

■教科書

国民衛生の動向2012/2013 厚生統計協会

■参考書

金川克子編：最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動。メヂカルフレンド社、2011

科目名	地域難病・感染症・健康危機対策と活動	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験に関する科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	難病 感染症				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

我が国における難病や感染症に関する基礎知識を確認し、今日的課題について調査・検討を促し、地域における支援体制や具体的な支援策について関心を持つ。

〔到達目標〕

- ①我が国における難病や感染症の今日的課題を確認し、看護職者のかかわりについて理解できる。
- ②我が国における難病や感染症を持つ人々への支援活動を知る。

■授業の概要

我が国における難病や感染症に関する基礎知識を確認し、今日的課題について主体的に課題を追求し、検討をする。地域での支援活動については、実際に活動している方から講義を通して、地域における支援体制や支援活動についての理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、難病、感染症に関する基礎的知識と今日的課題（制度を含む）
第2回	難病、感染症についての課題追究①（現状の理解）
第3回	難病、感染症についての課題追究②（制度、社会保障）
第4回	難病、感染症についての課題追究③（看護）
第5回	難病、感染症についての課題追究④（地域の支援）
第6回	ALS等の難病を持つ人々への地域看護活動
第7回	HIV/AIDS等の感染症を持つ人々への地域看護活動
第8回	難病、感染症を持つ人々への支援グループ活動

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・個人ワークは主体的に取り組むこと。

〔受講のルール〕

- ・文献検索、資料作成はコンピュータ室および図書室の使用を認めるが、原則、個人ワークは指定の教室で行うこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

グループワークでは意思決定ができるよう、準備を事前に行っておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

個人のレポートを評価する。

総合評価は60%を超えていることが前提となる。

■教科書

国民衛生の動向 厚生労働統計協会

■参考書

授業時に指示する。

科目名	地域健康問題診断と対策	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許状取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	地域・健康・連携・保健室				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学校保健と地域保健は、密接な関係にあり、児童生徒等が、生涯を通じて心身の健康を保持増進し、必要な健康的なライフスタイルを確立する必要性を理解する。

〔到達目標〕

ヘルスプロモーションの理念を具現化し、学校、家庭及び地域社会が連携協力し、課題解決に向けた対応ができる。

■授業の概要

地域の中の学校保健に焦点をあて、小学校・中学校・高校の保健室にくる児童・生徒の健康問題をアセスメントし、それへの対策を立案・実行する演習。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/学校を中核として地域社会や家庭との連携のもとに包括的にすすめる総合的な健康づくり
第2回	健康を推進し、子どもの健康づくりを支援する学校づくりの必要性
第3回	養護教諭が専門的立場で組織的に行う健康づくりのための活動
第4回	学校における健康相談の基本的理解
第5回	発達段階別心身の健康問題の特徴と理解
第6回	災害や事故発生時における子どもの心のケア
第7回	学校保健の課題とその対応
第8回	学校と地域の専門的医療機関との連携

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
- ・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ・授業の感想を書く。信頼関係の下で、表現力を育てるために行うものである。(評価には使わない)

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・地域や学校における健康づくりに関する情報(新聞記事)を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。
- ・自分自身の小学校・中学校・高等学校の保健室において、手当や相談の経験を思い出し、1事例を取り上げ、紹介して感想を述べる。負傷時や相談等、内容は自由とする。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

- ・筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)
- ・総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

みんなで進める学校での健康づくりへヘルスプロモーションの考え方を生かしてへ:日本学校保健会、2010
教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引:文部科学省、2012
国民衛生の動向:厚生労働統計協会、Vol.59 No.9、2012

■参考書

学校保健実務必携 新訂版:第一法規、2011

科目名	地域看護学実習Ⅰ(保健所)	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験必修科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	地域看護学実習Ⅰ(保健所)				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

保健所で行われている保健活動に参加し、地域の健康特性とそこで生活している人々の健康ニーズを総合的に理解するとともに、そのニーズに対応した地域保健活動の基礎的技術を習得し、実践応用力を養う。

〔到達目標〕

- ①地域の健康特性を把握するとともに、保健所で展開されている保健事業が住民の健康問題解決に果たしている役割を理解する。
- ②地域に生活している人々の健康ニーズを捉え、対象の健康特性(ライフステージ・健康レベル・生活状況等)に応じた援助方法を学ぶ。
- ③個人・家族・集団を対象地域保健活動を展開し、様々な保健指導技術の基本を修得する。
- ④地域の保健・医療・福祉・その他の関係施設の役割と連携の実際を学び、住民の健康問題解決のための活用方法を修得する。
- ⑤住民の主体的な保健組織活動の実際を学び、健康政策への住民の参画の必要性を理解する。

■実習履修資格者

以下の要件をすべて満たしている者が、地域看護学実習に臨むことができる。

- 1) 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ及びすべての領域別看護学実習の単位修得
- 2) 地域看護学概論Ⅰ、地域看護活動総論及び学校保健活動論Ⅰの単位修得
- 3) 地域看護活動技術、地域高齢者保健・介護予防活動論、産業保健活動論の単位認定の受験資格要件を満たしていること

■実習時期及び実習日数・時間

実習時期：平成25年9月2日(月)～9月27日(金)

実習日数・時間：5日間(45時間)

実習施設：群馬県内保健所

単位数:1単位

■実習上の注意

在宅看護論実習要項に沿って実習する。

■評価方法

1) 評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。

- ①出席状況
- ②実習内容:実習目的・目標に対する達成状況
- ③実習態度
- ④実習記録・レポート

2) 評価手順と方法：

- ①自己評価:実習終了時に学生が自己の評価を行う。
- ②提出物:実習終了時に既定の評価表、記録、レポートを提出する。
- ③上記により、A,B,C,Dの4段階で総合的に評価する。

科目名	地域看護学実習Ⅱ(市町村保健センター)	担当教員 (単位認定者)	佐藤 京子 他	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験必修科目		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	地域看護学実習Ⅱ(市町村保健センター)				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

市町村保健センターで行われている保健活動に参加し、地域の健康特性とそこで生活している人々の健康ニーズを総合的に理解するとともに、そのニーズに対応した地域保健活動の基礎的技術を習得し、実践応用力を養う。

〔到達目標〕

- ①地域の健康特性を把握するとともに、市町村保健センターで展開されている保健事業が住民の健康問題解決に果たしている役割を理解する。
- ②地域に生活している人々の健康ニーズを捉え、対象の健康特性(ライフステージ・健康レベル・生活状況等)に応じた援助方法を学ぶ。
- ③個人・家族・集団を対象地域保健活動を展開し、様々な保健指導技術の基本を修得する。
- ④地域の保健・医療・福祉・その他の関係施設の役割と連携の実際を学び、住民の健康問題解決のための活用方法を修得する。
- ⑤住民の主体的な保健組織活動の実際を学び、健康政策への住民の参画の必要性を理解する。

■実習履修資格者

以下の要件をすべて満たしている者が、地域看護学実習に臨むことができる。

- 1) 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ及びすべての領域別看護学実習の単位修得
- 2) 地域看護学概論Ⅰ、地域看護活動総論及び学校保健活動論Ⅰの単位修得
- 3) 地域看護活動技術、地域高齢者保健・介護予防活動論、産業保健活動論の単位認定の受験資格要件を満たしていること

■実習時期及び実習日数・時間

実習時期：平成25年9月2日(月)～9月27日(金)

実習日数・時間：5日間(45時間)

実習施設：群馬県内市町村保健センター

単位数:1単位

■実習上の注意

在宅看護論実習要項に沿って実習する。

■評価方法

1) 評価項目：

以下の項目を基に総合的に評価する。

- ①出席状況
- ②実習内容:実習目的・目標に対する達成状況
- ③実習態度
- ④実習記録・レポート

2) 評価手順と方法：

- ①自己評価:実習終了時に学生が自己の評価を行う。
- ②提出物:実習終了時に既定の評価表、記録、レポートを提出する。
- ③上記により、A,B,C,Dの4段階で総合的に評価する。

科目名	地域看護学実習Ⅲ(学校保健)	担当教員 (単位認定者)	豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (45)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	学校保健 地域 養護教諭 連携				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学校保健活動および養護教諭の活動の実際を学び、地域と学校との連携のあり方を通して包括的健康支援を考える。

〔到達目標〕

- 1) 学童・生徒の健康問題を知ることができる。
- 2) 養護教諭および保健室の役割、機能を学ぶことができる。
- 3) 地域保健活動と学校保健との連携を学ぶことができる。
- 4) 就学期における子どもたちの健康問題を、乳幼児期から成人期、老年期までの一貫したライフサイクルの中で捉え、健康支援のあり方を知ることができる。

■実習履修資格者

地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲおよび地域看護学実習Ⅳともに以下の要件をすべて満たしている者が、地域看護学実習に臨むことができる。

- 1) 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習およびすべての領域別看護学実習の単位修得
- 2) 地域看護学概論Ⅰ、地域看護活動総論および学校保健活動論Ⅰの単位修得
- 3) 地域看護活動技術、地域高齢者保健・介護予防活動論、産業保健活動論の単位認定の受験資格要件を満たしていること

■実習時期及び実習日数・時間

実習時期：2013年9月2日(月)～9月27日(金)

実習日数・実習時間：1週間(45時間) 事前指導1日、事後指導2日間

実習施設：藤岡市内の公立学校

*実習方法の詳細は「臨地実習要項 地域看護学実習Ⅲ」に提示する。

■実習上の注意

地域看護学実習Ⅲ要項に沿って実習する。

- 1) 基本姿勢
実習校の教職員は、後継者を育てるために、多忙な時間を割いて実習生の教育・指導に当たっていただいている。このことを十分に理解し、感謝して、謙虚な姿勢で実習に臨む。また、一人一人が群馬医療福祉大学看護学部を代表しているという自覚をもって行動する。
- 2) 実習校の教職員に対して
実習校の教職員に対しては、自分は指導を受ける立場にあることを念頭において接する。一つ一つの動作や、言葉使いにも細心の注意を払う必要がある。
- 3) 教師としての自覚と責任
実習生は、大学においては「学生」であっても、児童生徒と接する場面においては、人生の先輩であるとともに、指導者として、一人前の「先生」としてみられる。実習中は「教師」としての自覚をもち、それに見合った責任を果たすことが求められる。体罰は厳禁である。教師としての「守秘義務」があることは最も重要な確認事項である。
- 4) 「学ぶもの」としての自覚
実習生は、「学ぶもの」としての自覚をもち、教職員や児童生徒を「師」として関わる。授業・休み時間・清掃・学校行事など、学校に関わるすべてに関心を示し、課題意識を持って積極的に関わり、多くのことを吸収する。
- 5) 実習のピア支援
一緒に実習する仲間は、学習活動や情報交換において協力し、相談相手として機能するなど、充実した実習になるように支えあう。リーダーは、実習生のまとめ役として挨拶や諸連絡の窓口になる。

■評価方法

1) 評価項目：以下の項目を基に総合的に評価する。

- ①出席状況
- ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況
- ③実習態度
- ④実習記録・レポート

2) 評価手順と方法

- ①自己評価：実習終了時に学生が自己の評価を行う。
- ②提出物：実習終了時に評価票・記録・レポートを提出する。
- ③上記評価票により、A、B、C、Dの4段階で総合的に評価する。

科目名	地域看護学実習Ⅳ(産業保健)	担当教員 (単位認定者)	丸岡紀子、他	単位数 (時間数)	1 (45)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	保健師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「地域看護学」			
キーワード	産業保健 成人期 健康管理				

■授業の目的・到達目標

〔実習目的〕

産業の場における保健活動(保健師及び看護師)の実際を学び、地域と産業の連携の在り方を通して、成人期における包括的健康支援を考える。

〔実習目標〕

1. 産業の場における健康問題を知り、健康管理部署の役割、機能がわかる。
2. 成人期の健康問題について、産業・地域保健の場での対応の違い、連携の必要性がわかる。

■実習履修資格者

以下の要件をすべて満たしている者

- 1) 基礎看護実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ及びすべての領域別看護学実習の単位修得
- 2) 地域看護学概論Ⅰ、地域看護活動総論及び学校保健活動論Ⅰの単位修得
- 3) 地域看護活動技術、地域高齢者保健・介護予防活動論、産業保健活動論の単位認定の受験資格要件を満たしていること

■実習時期及び実習日数・時間

実習時期:平成25年7月1日(月)～7月27日(金)

実習日数:5日間(月)～(金)

時間:45時間

実習施設:県内及び近隣県の事業所等

※実習方法の詳細は「臨地実習要項 地域看護学実習Ⅳ」に提示する。

■実習上の注意

「臨地実習要項 地域看護学Ⅲ」にそって行う。

社会人としての責任ある振る舞いを要求される。

本学の制服もしくは、指示された服装で実習する。ジーンズは不可。

靴はローヒール(3cm以下)で音のしないものであること。施設によっては上履きに履きかえるところもあるので事前情報に注意する。

参加する活動によっては運動靴等を使用するが、清潔で機能的、活動的なものを用いる。その他、臨地実習指導者の指示に従う。

髪は他の実習と同じくきちんとまとめる。アクセサリは付けない。

実習中は名札を着用する。

■評価方法

1) 評価項目 : 以下の項目を基に総合的に評価する。

- ①出席状況
- ②実習内容、実習目的・目標に対する達成状況
- ③実習態度
- ④実習記録・レポートを総合的に評価する。

※実習時間の4/5以上の出席を要する。

2) 評価手順と方法 :

- ①自己評価:実習終了時に学生が自己の評価を行う。
- ②提出物:実習終了時に評価表・記録・レポートを提出する。
- ③上記評価等により、A、B、C、Dの4段階で総合的に評価する。

科目名	訪問看護ステーション等経営管理論	担当教員 (単位認定者)	小澤 かほる	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年前期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「看護学特論」			
キーワード	訪問看護師、訪問看護ステーション				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

地域の病院や診療所と提携し、地域ケアを支える訪問看護ステーション等における看護サービスと事業の運営・管理について理解できる。

[到達目標]

- ①訪問看護の歴史が理解できる。
- ②訪問看護師の役割が理解できる。
- ③訪問看護ステーションの運営が理解できる。

■授業の概要

地域ケアを支える訪問看護ステーション等の運営管理を理解するために、訪問看護や訪問看護師及び訪問看護ステーションや他の関連機関について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、在宅看護論実習の振り返り、グループワーク
第2回	訪問看護の歴史
第3回	訪問看護師の役割
第4回	訪問看護ステーションの概要
第5回	地域における訪問看護ステーションの役割
第6回	訪問看護師と事業運営
第7回	訪問看護ステーションの経営管理
第8回	他職種との連携

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストは「在宅看護論 実践を言葉に」ヌーベルヒロカワを使用。資料は適宜配布する。
ただし授業で配布する資料の予備は保管しませんので、各自準備し出席すること。
授業時適宜レポートの提出を求める。レポート用紙は各自準備し出席すること。
受講態度は、看護学生にふさわしい態度で臨む。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験70%、レポート評価(誤字脱字がなく、自分の考えが述べられている)30%
総合評価は筆記試験とレポート評価の合計点が60%を超えることが前提となる。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	看護研究方法論	担当教員 (単位認定者)	西山 智春	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	4年前期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「看護研究」			
キーワード	看護研究 文献クリティーク 研究デザイン 研究倫理 論文のまとめ方				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

看護専門職を目指す者として、看護研究方法論の基礎を学び、研究疑問を科学的に探究する能力を養う。

〔到達目標〕

看護研究に関する基本的な知識、研究方法、研究の倫理について理解し、各自の研究テーマに基づく論文作成(看護研究セミナー)に活用できる。

■授業の概要

看護研究の基礎となる研究プロセスと研究方法を学ぶ。研究計画書の書き方、データ収集・分析の方法、研究の倫理的配慮、文献クリティーク、論文のまとめ方、研究発表の仕方について理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 看護研究プロセスの概要 文献検討の意義 文献検索の方法 文献の活用方法
第2回	文献クリティーク
第3回	研究計画書①
第4回	研究計画書②研究計画書の作成:グループワーク
第5回	研究課題と研究デザイン① テーマ設定 研究デザインの種類と特徴
第6回	研究課題と研究デザイン② (同上)
第7回	量的研究① 量的研究のデータ収集と分析 質問紙調査票の作成
第8回	量的研究② (同上)
第9回	質的研究① 質的研究のデータ収集と分析 内容分析 事例研究
第10回	質的研究② (同上)
第11回	研究と倫理
第12回	論文のまとめ方①
第13回	論文のまとめ方②
第14回	研究発表の仕方
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

自己の研究課題(看護研究セミナー)への取り組み及び論文作成につなげて活用する。
出席日数が規程に満たない場合は筆記試験を受けることができない。

■授業時間外学習にかかわる情報

自己の研究課題(看護研究セミナー)に関連する研究論文を読み、文献学習を積極的に行うこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(90%) 授業態度(10%)

■教科書

南裕子:看護における研究,日本看護協会出版会,2008

■参考書

適宜紹介する。

科目名	看護研究セミナー	担当教員 (単位認定者)	西山 智春・豊島 幸子 櫻井 美和・専任教員	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	4年通年必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「看護研究」			
キーワード	看護研究、EBP、EBN、研究倫理、質的研究、量的研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

必修科目「看護研究概論」「看護研究方法論」での学習内容を活用し、自己の研究テーマに基づき看護研究の一連の過程を実施することを通じ、看護研究を実施するために必要な基礎的能力を習得する。

〔到達目標〕

- ①看護研究として取り組みたい研究課題を明確化し、研究テーマを決定する
- ②自己の研究テーマ、研究目的に基づき、研究計画書を作成する
- ③研究計画書に基づき、データ収集・分析を実施する
- ④研究結果を論述し、考察する
- ⑤実施した一連の過程を研究論文の形式に則って論述する
- ⑥実施した一連の看護研究の過程を研究発表の方法に則って発表する
- ⑦看護研究の過程を通して、看護実践上の問題を解決することに意義を見いだす

■授業の概要

看護実践の質の向上、看護学の発展、看護専門職の専門性を発展させる上、看護研究は必要不可欠である。本科目では、個々の学生は、一年、二年、三年次のボランティア活動、看護実習での実践活動から抽出した問題を研究テーマとし、担当教員の指導を受けながら、文献検討、研究テーマの吟味・決定、研究計画書の作成、データ収集、論文作成、研究成果の発表などの看護研究の一連の過程を実際に経験し学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/研究テーマの決定
第2回	研究計画書の作成 [1]
第3回	研究計画書の作成 [2]
第4回	研究データの収集 [1]
第5回	研究データの収集 [2]
第6回	研究データの収集 [3]
第7回	研究データの分析 [1]
第8回	研究データの分析 [2]
第9回	研究データの分析 [3]
第10回	研究論文の作成 [1]
第11回	研究論文の作成 [2]
第12回	研究論文の作成 [3]
第13回	研究発表会の準備 [1]: 発表原稿の作成
第14回	研究発表会の準備 [2]: 予行演習
第15回	研究成果の発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・上記「授業計画」はあくまでも目安であるため、学生は、主体的に担当教員の指導を求め、その指導に基づき課題に取り組む。

〔受講のルール〕

- ・看護研究に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰ・Ⅲにおいて学習した内容（授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索、研究の進め方等）を活用すること。
- ・担当教員から提示された課題には主体的に取り組む、提出期限は必ず厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・担当教員から提示された課題には真剣に取り組むこと。
- ・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

看護研究セミナーの一般目標および行動目標を評価基準として、看護研究の一連の過程における学生の言動、研究論文や研究成果の発表内容等により、単位認定教員が評価、判定する。

■教科書

- ①南裕子: 看護における研究, 日本看護協会出版会, 2008.
- ②日本看護協会編: 日本看護協会看護業務基準集 2007年改訂版, 日本看護協会出版会, 2007.

■参考書

- ・小笠原知枝, 松木光子編: これからの看護研究—基礎と応用—第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2012.
- ・D.F. ポーリット, C.T. ベック著: 看護研究—原理と方法—第2版, 医学書院, 2010.

科目名	ヘルスカウンセリングの原理と方法	担当教員 (単位認定者)	清水 敦彦 豊島 幸子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年後期選択科目	免許等指定科目	養護教諭1種免許取得に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会系」			
キーワード	健康 カウンセリング 自己効力感				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
一人一人のニーズに応じた支援を行うために、ヘルスカウンセリングの基本的知識と技法を学ぶ。
〔到達目標〕
ヘルスカウンセリングの基礎的知識と技法を理解し、学校でできる支援の意義について理解を深める。

■授業の概要

カウンセリングについて、もっとも基本的なことを検討し、ヘルスカウンセリングの基本技法と展開について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ヘルスカウンセリングの意義
第3回	カウンセリングの方法
第4回	自己決定を効果的に促すヘルスカウンセリング法
第5回	ヘルスカウンセリングの基本技法と展開
第6回	ケースに学ぶヘルスカウンセリング
第7回	発達障害・精神疾患を理解する
第8回	様々な不適応を示す子どもたちへの対応

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
・予習段階での疑問点などは文献を検索し、さらに疑問点が残る場合は積極的に質問を行う姿勢で授業に臨むこと。
また、教科書や当日の記録などを基に十分な復習を行う。
・社会に関心を持ち、新聞などを読むこと。
〔受講のルール〕
・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
・授業の感想を書く。信頼関係の下で表現力を育てるために行うものである。(評価には使わない)

■授業時間外学習にかかわる情報

・健康に関する情報(新聞記事など)を収集する。その内容を3分間スピーチで語る。
・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、レポート30%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)
総合評価は筆記試験、レポート評価ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

看護に役立つヘルスカウンセリング、宗像恒次、メジカルフレンド社、1999
系統看護学講座 基礎6 心理学、辰野千寿、医学書院、1992

■参考書

授業時に指示する。

科目名	医療経済論	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年後期選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一般教養領域における「人文社会科学系」			
キーワード	保険と経済 医療保険				

■授業の目的・到達目標

経済の視点から医療保険制度を把握していくことを授業の目的とする。医療保険制度の仕組みと実態を理解し、さらに経済理論を用いて医療保険制度を評価できることを到達目標とする。

■授業の概要

医療保険制度の仕組みと実態を中心に医療経済論の基礎について学習し、さらに諸外国の実態についても授業で扱う。また経済理論を用いて保険制度を考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	イントロダクション
第2回	医療保険
第3回	介護保険
第4回	アメリカの医療保険制度Ⅰ
第5回	アメリカの医療保険制度Ⅱ
第6回	医療保険・介護保険制度の国際比較
第7回	保険の経済理論
第8回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を通読することが望まれる。授業で学習した内容は、教科書だけではなく、さまざまな文献やHP等を参照して復習すると、理解がより深まる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	国民衛生の動向	担当教員 (単位認定者)	櫻井 美和 丸岡 紀子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年後期必修科目	免許等指定科目	看護師国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		看護学関連領域における「社会科学系(保険医療福祉)」			
キーワード	衛生統計、健康指標、人口動態統計、人口動態統計、生命表、疾病統計、感染症				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

日本の人々の健康指標を理解し、健康の保持増進と疾病予防について考える素地を養う

〔到達目標〕

- ①衛生統計、健康指標の意義を理解する
- ②日本の人々の各ライフステージにおける健康を評価するための健康指標とその推移、現況を理解する
- ③日本の感染症の現況と問題点、およびその対策の概況を理解する
- ④上記①～③の理解に基づき、健康保持増進と疾病予防を図る看護学領域において、個人、集団、社会における健康問題を解析し、アプローチすることの意義を理解する

■授業の概要

衛生統計と健康指標の意義や推移、現況を理解することは、健康の保持増進と疾病予防を図る看護職者にとって必要不可欠である。本科目では、日本における代表的な衛生統計、健康指標の意義や推移、健康の保持増進と疾病予防にかかわる対策、種々の法律についても学習し、看護職者の役割を再確認する機会とする。また、看護師・保健師国家試験において頻出する衛生統計と健康指標についても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/衛生統計と健康指標 [1]: 衛生統計と健康指標の概要、意義、目的・応用、人口動態統計にかかわる健康指標、人口構成
第2回	衛生統計と健康指標 [2]: 人口動態統計にかかわる健康指標の理解、生命表の概念・意義、平均余命、平均寿命
第3回	衛生統計と健康指標 [3]: 疾病統計にかかわる健康指標の理解
第4回	各ライフサイクルにおける健康指標と推移 [1]: 母子の健康を評価するための健康指標①(出生率、合計特殊出生率、再生産率、人口増加率、婚姻率、離婚率等)
第5回	各ライフサイクルにおける健康指標と推移 [2]: 母子の健康を評価するための健康指標②(妊産婦死亡率、死産率、周産期死亡率、新生児死亡、乳児死亡、子どもの発達段階別死因等)
第6回	各ライフサイクルにおける健康指標と推移 [3]: 成人期、老年期にある人々の健康を評価するための健康指標①(罹患率、有病率、致命率、平均罹病日数、受療率、年齢別・男女別死因等)
第7回	各ライフサイクルにおける健康指標と推移 [4]: 成人期、老年期にある人々の健康を評価するための健康指標②(老年人口割合、老年化指数、老年人口指数、従属人口指数等)
第8回	感染症とその予防: 感染症類型と主な感染症の流行現象、感染症に関連する法律

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・必修科目「地域看護学概論」「精神看護学概論」「母性看護学概論」「小児看護学概論」「成人看護学概論」「老年看護学概論」「公衆衛生学」等の知識が必要となる。これらの科目で学習した知識・技術を十分復習するとともに、予習を必ず行うこと。

・小テストを行います。

〔受講のルール〕

・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業を受ける際、課題に取り組む際には、基礎演習Ⅰ・Ⅱおよび専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて学習した内容(授業に臨む態度、ノートの取り方、レポート・論文の書き方、グループワークのあり方、文献検索等)を活用すること。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・授業計画にある学習内容について、教科書を精読し予習した上で授業に臨むとともに、わからない部分を授業にて解決するよう努めること。

・わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)60%、授業中に実施する小テスト30%により総合的に評価する。

■教科書

①厚生統計協会編集:国民衛生の動向,最新版

■参考書

柳川洋、中村好一編集:公衆衛生マニュアル,南山堂

科目名	看護教育学	担当教員 (単位認定者)	平賀 元美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	4年後期選択科目	免許等指定科目	なし		
カリキュラム上の位置づけ		看護学領域における「看護学特論」			
キーワード	看護基礎教育 継続教育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

看護基礎教育の制度と変遷を理解し、看護教育に携わる上で必要な知識を理解する。

〔到達目標〕

- ①看護基礎教育の制度および関係法令とその変遷を理解する。
- ②看護基礎教育における教育課程の内容と考え方を理解する。
- ③看護基礎教育を行う上で必要な教育方法を理解する。

■授業の概要

看護基礎教育に携わる上で必要な知識として、保助看法、看護師等学校養成所指定規則と今日的課題と取り組みについて考える。さらに、国家試験受験資格として必要な看護師教育の内容と、具体的な教育方法の考え方について理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、看護教育制度の変遷①
第2回	看護教育制度の変遷②
第3回	看護基礎教育の現状と課題 厚生労働省、文部科学省での検討会
第4回	看護基礎教育の教育課程の考え方①(看護師)
第5回	看護基礎教育の教育課程の考え方②(保健師、助産師)
第6回	看護における継続教育(専門看護師、認定看護師)
第7回	看護教育に必要な教育方法① 講義
第8回	看護教育に必要な教育方法② 臨地実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

受講生に関わる情報

・看護学教育に興味のある方はぜひ受講してください。

〔受講のルール〕

・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題についてのレポートで評価する。60%を超えていることが前提となる。

■教科書

- ①グレッグ美鈴他 看護教育学 南江堂
- ②看護六法

■参考書

講義の中で適宜提示する。